

英語ネイティブ度判定テスト

小池直己, 佐藤誠司 著

新書判 264pp.
本体800円＋税



深澤清治

クイズで楽しむ英語総合力検定

『英語ネイティブ判定テスト』を一言で表せば、クイズ形式で楽しみながらサクサク読める、英語及び英語背景知識検定と呼べるであろう。

最近、ネイティブの英語、ネイティブの感覚、ネイティブの発音（音声）、ネイティブ脳、など「ネイティブの」というタイトルが書店の英語コーナーで目立つようになった。その流れの中で、本書のねらいとして「はじめに」に次のように書かれている。

「本書は、一般社会人・大学生・高校生の読者を対象に、英語の『ネイティブ度』をクイズ形式で判定しようとするものです。ネイティブ度とは、英語の運用能力・英語的な発想力・英語圏の社会や文化に関する知識などを総合的に測る尺度と考えてください。」

そして、ネイティブ度を測るため、本書は次の4つのパートで構成されている。

Part 1 ネイティブと話すときは知っておきたい一般常識

Part 2 ネイティブらしく話すための会話表現

Part 3 ネイティブらしく書くための英作文表現

Part 4 ネイティブに近づく文法・語法の知識

各パートに150問、合計600問の問題が含まれ、左ページには問題が並び、右ページにはそれに対応する正解とミニ解説が入っている。パート毎に1問1点（150点満点）で採点し、各パート末にネイティブ度判定基準及びTOEIC得点力の目安が示されている。

まず、Part 1では、外国語を学ぶ上でその外国語が話されている国の地理・歴史などに興味を持つことの重要性にふれ、アメリカ、イギリスをはじめとする英語圏の国の人なら誰もが知っている「常識」をチェ

ックしようとしている。トピックとして地理、歴史から政治、経済、芸術、文化、行事、スポーツ、娯楽、さらには英字新聞の見出しの読み方から長さの換算式まで、幅広くカバーされている。果たしてこれがネイティブの誰もが知っている常識なのか、たとえば、全米各州名と州都名や歴代の大統領の名前を即座に言える人は、「理想的な」ネイティブかもしれないが、ともあれこれだけの分野の背景知識を選ばれた著者の好奇心と博識には敬意を表したい。なお、英語の常識094 (p.38) のアメリカの2大政党のうち、共和党 (Republican Party) は、正しくはRepublican PartyあるいはGrand Old Party (GOP) であろう。

Part 2では、ネイティブらしく話すための会話表現が並んでいる。文法的に正しいだけでなく、場面や状況に応じた適切な表現や、会話での定型表現を修得することは大切なことである。たとえば、「そう言うては身もふたもないよ」を「あなたは直接的すぎる」という中間日本語を経て、You are too (direct). へ導くなど、日本人がことばの壁を越えて表現しやすくなるようなヒントが各所に見られる。

続くPart 3は、ややPart 2と重複するが、「重い病気」をheavy illnessと直訳せずに、His illness was serious. のように適切な単語や表現を選択する力やことばのセンスを問う問題が続いている。問題形式にも、日本語対訳、多肢選択問題、適語補充、部分訂正などバラエティが見られる。

最後にPart 4はネイティブに近づくための文法・語法の知識で、日本人が特に間違いやすいものを抽出し、日本語対訳や適語補充などを通して、理解を促すものである。英語で授業を行う際に必要となる英単語を聞き出す教室英語として、「マグロは英語でどう言うの？」を英語にする場合によく使われるHow do you call “maguro” in English? を、We call it “tuna.” からマグロが名詞なので疑問代名詞のwhatを用いると説明している。このように、日本語からの対訳で間違えやすい表現が多く並んでおり役に立つ。

このように、本書はどこから読んでも簡便に自分の英語セルフチェックができるように便利に作られている。身近な英語圏検定として勧めたい。

(ふかざわ せいじ・広島大学教授)